

パートナーSS

市民活動はまちの未来を創造する

特集

处分から
「いのち」をつなぐ
～保護犬の譲渡会を訪ねて～
(2,3ページ)

清水の夏を盛り上げよう 七夕まつりをみんなで応援!



清水七夕まつりはかつて商店街が店ごとにその出来栄えを競い合うまちの大イベントでしたが、近年市民飾りも加わるようになりました。清水市民活動センターも施設を利用する団体に声をかけ、2017年から参加しています。

「清水の七夕まつりを市民参加でもっと盛り上げたいね」という清水っ子たちの声から始まり、立派な作品を作るというより多くの市民が関わることを目指す取り組みとして、今年もたくさんのみなさんに協力をしていただきました。

市民活動センター内も、寄せられた願いごと短冊とガールスカウトとの共催展示で華やぎました。

コロナ禍からの復活2年目。飾りの数も増え、たくさんの人でにぎわった七夕まつりでまちは夏本番を迎えます。



静岡 動物愛護団体 NPO法人
その小さないのち守りたいプロジェクト

ある新聞に、『県内で殺処分された犬と猫の数が過去最少』という記事があり、その要因の一つにボランティア団体の貢献が挙げられていました。

6月11日、さまざまな厳しい環境に置かれた犬たちのレスキュー活動をおこなう『その小さないのちを守りたいプロジェクト（以下いのちプロジェクト）』が開催した保護犬の譲渡会に行ってきました。そこには保護犬の幸せのために奮闘する会員の姿がありました。保護犬の世話や訪れた人への対応で忙しい中でしたが、代表の佐野友美さん、副代表の村野かよ子さんに、活動についてうかがうことができました。



「その小さないのち」を守るために

佐野一 保健所等から犬を保護し、病院にて医療を施し、家族として迎えてくださる家庭へ譲渡して「いのち」をつなぐ活動をしています。また、啓蒙活動として犬や猫の現状を伝えるパネル展示やふれあい訪問活動も行っています。

村野一 保護犬のボランティア活動をしていた代表が、団体を立ち上げたいということで、私を含めた有志5人で集まり、2016年に任意団体として活動をスタートさせました。活動していく中で、命を預かって新たな家庭に譲渡していくには信頼が高い方が良いと感じ、2018年1月にNPO法人になりました。今は、預かりボランティア、イベントを手伝うボランティアも含めて、30人程で活動しています。



▲副代表の村野さん(左)、代表の佐野さん(右)
村野さんと佐野さんの犬が兄弟という関係でもある



まずは健康チェックから

佐野一 保護犬とは、飼い主のいない犬のことをいいます。譲渡会にいる子たちは、保健所に保護されたり、ブリーダーの多頭飼育崩壊現場からレスキューされたり、一般家庭で飼育放棄された子たちです。ボランティア団体同士のつながりで、県外で保護された子を受け入れて、里親さんを探すこともあります。私たちのところに来る時は、何もわからない状態で来るので、治療が必要な子はもちろんのこと、隠れている病気を探して、治療しなくてはいけない子もいます。メディカルチェックとして、血液検査、フィラリア検査、検便、耳、ダニの検査を必ず行っています。小犬の場合は、追加でPCR検査もやります。



▲譲渡会場の保護犬
左上の犬は、保護された後に妊娠がわかった



保護犬からの卒業

佐野一 保護犬がこれから家族の一員として迎えられていく前に、まずは預かりボランティアさんの元で子どものように育ててもらうことで、家庭を知ってもらいます。そして、家族に迎えたいという問合せがあった時は、まずは譲渡会に来て頂き、面会の場を設けます。

村野一 この時に、犬の現在の状況や譲渡の条件を説明します。



▲ 来場者に説明をする預かりボランティア
里親からボランティアになる人も多い

佐野一 申込み後に、犬と受け入れる家庭が家族になるための準備として、トライアル期間を設けています。その期間中、『懐いてきました』『まだ警戒しています』等の様子を毎日報告してもらい、犬から見た家族、家族から見た犬、それぞれの関係を見させてもらっています。

村野一 加えて、室内から道路に出てしまわないようにリビングに柵を付けること、留守番の時にはコードを噛んで感電することがないようケージに入れておくこと等、安心して暮らすための注意点をお伝えしています。首輪等の道具を一式揃えてもらい、全て準備が整ったところで正式譲渡となります。



▲ 首輪と迷子札。正式譲渡の時は、ハーネスも持ってきてもらい、必要な道具が揃っているか確認している



里親との継続したつながり

村野一 里親さんの中には譲渡後も、会場に犬を連れて、顔を見せに来てくれる方もいます。その時に、しつけに関する相談を受けることもあります。また、愛犬救命訓練士の先生に来てもらい、毎月第3日曜日に、『しつけ教室』を開催しています。里親さんがしつけで困ることがないようにできる限りフォローしています。



▲ 保護犬や卒業した犬を対象にした『しつけ教室』



1匹でも多くのいのちをつなぎたい

村野一 今後に向けていちばんの課題は、資金ですね。病院に行く機会が多いので、医療費だけで年間600～800万円かかります。全額ではないですが、譲渡時に「譲渡費用」としてこれまでに掛かった医療費の一部を返還してもらっています。そこに、賛助会員の会費や皆様からの寄付を加えて、なんとか活動が成り立っています。

佐野一 保護犬たちに幸せになってもらうためにも、これからも県内各地で譲渡会を開催し、1匹でも多くの「いのち」をつないでいきますので、応援お願いします。

今後のスケジュール

- 8/13(日) 道の駅富士川楽座
- 8/27(日) トライアルパーク蒲原
- 9/10(日) 道の駅富士川楽座
- 9/24(日) トライアルパーク蒲原

団体HP



いのちプロジェクトは、定期的に譲渡会を開催しています。興味がある方は、HPから詳細を確認できます。

動物福祉を対象にした助成金は少なく、いのちプロジェクトのような団体にとって活用できる資金獲得の選択肢は限られています。保護・譲渡のみで終わらず、迎えた家族と犬が幸せに過ごしていくためのフォロードしていることを、取材を通じてはじめて知りました。殺処分数が減少したという記事の背景には、いのちプロジェクトのような団体の想いと努力があることを忘れてはいけないと感じました。



NPOワンポイント

静岡市市民自治推進課よりお知らせ

NPO法人の申請・届出等の手続がオンラインで可能に！

NPO法人の各種手続をインターネットでおこなうシステムを内閣府が構築しました。静岡市はこれまで法人の設立や事業報告、役員変更、定款変更等の手続を郵送や持参で受け付けていましたが、

令和5年9月1日からこのシステムを利用した受付を開始する予定です。

(従来通り書面による申請・届出等をおこなうこともできます。)

自宅から手続きすること
ができるようになります。

さらに

住民票の写しが不要！

役員変更等の際に添付をお願いしていた住民票の写しが不要になります。

(住民票の写し以外で居所を証する書面を提出していた方は、今までどおりの手続きです。)

発行費用がなくなります

副本及び写しの添付が不要！

届出・申請等の際に添付をお願いしていた副本及び写しが不要になります。

以上の変更も**令和5年9月1日**からです。

(令和5年8月31日までは従来通りの手続きです。ご注意ください。)

詳細については、以下のURLからご覧ください。

https://www.city.shizuoka.lg.jp/912_000215.html



提出書類が減ります



センター主催講座のお知らせ

今日からできる！新しい仲間の増やし方

活気ある団体や組織には、新たに参加する仲間、積極的に携わる仲間の存在は欠かせません。

『市民活動の仲間集め・人材の育成』の講師として活躍する田形勇輔さんを講師に迎え、仲間が集まる方法、定着する組織運営について学びます。

- 日 時：9月23日（祝・土） 10:30～12:30 第1部 「新たな仲間を巻き込むコツ」
13:30～15:30 第2部 「活動を支えるメンバーを育てるコツ」
- 講 師：C R ファクトリー コミュニティーマネジメント認定インストラクター 田形勇輔さん
- 参加費：各300円（資料代） ■定 員：各25名（お申込順） ■締 切：9月21日(木)



しみず・コレなぁに？ その57

清水区村松にある古刹鉄舟寺は、国宝の久能寺経はじめ多数の文化財を所蔵することで知られ、境内を散策すればいろいろなモニュメントを見ることができます。

この石碑もその中の一つで、後ろに設置されたガラスケースにはたくさんの千羽鶴が収められ、碑文には、「広島長崎 原爆慰靈碑」の文字が刻まれています。現在500近くの方が合祀されており、静岡県内の被爆者や被爆二世の方たちを中心に毎年慰靈祭と式典がおこなわれています。

終戦から78年、静岡市も大きな爆撃を受けましたが、戦争の痕跡を伝える遺跡は徐々に減っています。一方で、県内の高校生の希望者を募り被爆地や国連に派遣するなど、若い世代に平和の大切さを訴えていく活動が続いています。